ニュースレター（vol. 6）

平成２５年６月発行

NPO 法人あきた菜の花ネットワーク

〒015-0801　秋田県由利本荘市美倉町 30　由利本荘市コミュニティ体育館内
TEL＆FAX：0184－44－8625　E - mail：tetsu1187pure@yahoo.co.jp

街中の緑が深まり、初夏を思わせる季節となりました。会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

さて、皆様のご協力をもちまして、このほど「第４回鳥海高原菜の花まつり」を開催いたしました。春先の低温の影響なども心配されましたが、まつり開催日には見事に満開の菜の花をご来場の皆様にお楽しみいただくことができました。以下に菜の花まつりの様子をご報告いたします。

◎「第４回鳥海高原菜の花まつり」開催の報告

平成 25 年６月１日（土）、２日（日）【開放期間 ５月 25 日（土）～５月 31 日（金）および６月３日（月）～６月７日（金）】（会場：由利本荘市矢島町桃野・南由利原）

今年の菜の花まつりは、桃野会場（7.5ha）225 万本、南由利原会場（5ha）150 万本の菜の花が、来場者の皆様をお出迎えし、鳥海高原の魅力と菜の花の可能性について、県内外に発信する機会となりました。

開催４回目を迎える菜の花まつりは、回を重ねるごとに賛同者も増え、地域住民や行政、大学を始め地域の各学校との協力体制も整い、将来を担う若い世代からも地域活性化に関わる機会としてご協力いただいています。今回のまつりには、社会人・秋田県立大学生・由利地域６校の高校から、ボランティアとして多数参加していただき、まつりを盛り上げ、支えてくださいました。来場者からは、菜の花だけでなく、ボランティアの対応に対する称賛の声を数多くいただき、改めて、多くの力により支えられている「まつり」ということを実感しました。ご来場の皆様、各部署で頑張ってくださったボランティアの皆様、本当にありがとうございました。

地域資源＆各世代のパワー、そして黄色い菜の花が、多くの方に元気を与え、会場内には笑顔があふれていました！

今後もイベントのみにとどまらず、菜の花から地域を元気にし、人々のつながりや楽しさを共有していきたいと思っています。

＜ニュースレター恒例企画「この人に聞く！」（第６回）＞

あきた菜の花ネットワークの事務局メンバーが、秋田を元気にするため日々奮闘している方からお話を伺い、先進的・独創的な取り組みやアイデアを学ぶと共に、会員の皆様にお伝えいたします。第6回目は、会社を経営する傍ら、農地を守り続けている「万粒ランドリソース株式会社（鹿角）」の倍賞元悦さんです。菜の花栽培の取り組みや地域について感じていることなど、お話を伺いました。

「受け継いだ農家としての役目」：万粒ランドリソース株式会社　代表取締役　倍賞　元悦　さん

○ネットワーク事務局（以下、事務局）：

早速ですが、お生まれはどちらですか。

○倍賞元悦代表取締役（以下、倍賞さん）：

私は生まれも育ちも鹿角です。農家の長男として生まれました。当時我が家では、稲作や果樹、野菜のほか、牛肥育を営んでいました。その後、牛は止め、父の他界と共に果樹も規模を縮小したり、減反の影響を受けたりと、今では状況も変わりましたが、農業を続けています。

○事務局：

倍賞さんは、学校を卒業後、すぐに家業を継がれたのですか。

○倍賞さん：

いえ、私は卒業後、測量関係の会社に就職し、その傍ら農業を行っていました。30 歳の頃、会社を退職し、農業をしながら、今の会社（上津野ﾃﾞｲｻﾑ）を立ち上げました。万粒ランドリソースは、その後農業用に設立しました。

○事務局：

大変そうですね。

○倍賞さん：

会社が忙しくなると、どうしても農業の仕事に手がかけられなくなりました。もちろん、出来る限り、草刈りやトラクターで畑を耕起していましたが、土地がだんだんと荒れてくることが気がかりでした。

そのような状況のときに、「菜の花」のことを聞き、畑を荒らさないようにと菜の花栽培に取り組みました。

○事務局：

実際に取り組んでみて、いかがでしたか。

○倍賞さん：

最初は圃場の選定や肥料の散布など、何も分からず大変でした。そこで、地域で「かづの作物栽培研究会」菜の花部会を組織し勉強をしました。今でも、小坂町で行われた菜種栽培説明会に出掛けるなど勉強を続けています。菜の花は、連作できないなど課題もありますが、収穫した菜種油を親戚に送るなど、楽しみながら、菜種栽培を続けています。

○事務局：

自分で作った作物を自分で食べたり、知人にプレゼントしたりできることは、この上ない贅沢ですね。

○倍賞さん：

農業には収穫の喜びがあります。

また会社をやっているからこそ、農業の良さを感じる機会があります。天気の良いときは外に出て、太陽のもとで土に触れ耕す。そうすることで、生活に余裕が生まれてくるような気がしています。またそのような生活を送ると、夜のお酒もなおさら美味しいです（笑）。私は受け継いだ農家としての役目を果たしながら暮らして、そして土に還っていきたいと思っています。

○事務局：

太陽のもとで土に触れる、それが人間として、自然な暮らしなのかもしれませんね。

今後はどのようなことをお考えですか。

○倍賞さん：

現在、菜種の収穫は、汎用コンバインを利用していますが、もっと小型化された機械が作れないかと考えています。小型化ができれば気軽にみんなが使え、自分たちの好きなタイミングで刈取りもできます。ものづくり関係のところに相談に行ったりもしましたが、残念ながら製作は難しいようでした。

また周りの農家などが菜種栽培に取り組みやすくなるように、菜種栽培の成功例を作りたいと思っています。そのためにも菜種と組み合わせて連作に対応できる作物の確立を考えています。

○事務局：

そうですね。ネットワークでもそういった情報を発信していきたいと思っています。

○倍賞さん：

最近、地域に元気がなくなりつつあるように感じています。一人一人が、小規模でも農業でお金を稼ぐことができ、安心して暮らしていけるような社会であってほしいです。またこの場所で、私がこのようにやっていけるのも妻と息子の支えがあるからです。会社も農業も家族の支えなしでは決してできません。

○事務局：

本日はお話をお聞かせいただきありがとうございました。今後も地域での様々な取り組みをお教えください。

☆☆☆【事務局所感】お話を伺って☆☆☆

・「自分の置かれた環境で、日々の暮らしを家族と大切に過ごす」当たり前のようで、とても素敵な生活のヒントを教えていただいた気がします（M）。

・倍賞さんは、農地を守る使命感を持ちつつも、楽しく生きる術を模索する人でした。こうした方に愛される菜の花運動でありたいと思います。（W）

環境教育の取り組みについて

◎「菜の花環境学習会」

鳥海高原菜の花まつり開放期間中の５月28日（火）、桃野会場内で由利本荘市内４校の小学校（矢島小・由利小・鳥海小・西目小）による『菜の花環境学習会』が開催されました。小学生たちは、始めに講師の秋田県立大学　金澤伸浩 准教授から、この場所に菜の花を植えた経緯や目的、菜の花の植生や活用方法、そして観察の仕方について説明を受け、その後、広大な菜の花畑で五感を使って菜の花を観察したり、畑の周りの環境や虫たちを調べたりと、会場内は元気な声に包まれました。

最後に金澤准教授から、「難しいけれど、自然との共生と地域の活性化について考えてみよう」との提案があり、小学生たちは考えを巡らしながら、菜の花畑を後にしました。

この日は、環境教育について学んでいる同大学の学生数名に、講師のサポートとしてご協力いただきました。学生さんたちが、自分たちが学んだことを「伝えよう」と一生懸命な姿は、小学生の心にも届いたと思います。

今後もこのような活動を通じて、地域の活性化や身の回りの自然環境について、気づき、考える機会としていく予定です。

◎「青少年によるエコタウン事業実践のための環境教育プログラムの開発」

今年度、ネットワークでは、地球環境基金からの助成を受け環境教育プログラムの開発を実施いたします。主な内容は、環境・ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）講習会開催、大学生による秋田県内エコタウン事業等の調査サポート・環境教育メニューの作成などです。若い世代の環境教育について、秋田県立大学と協同で取り組みを進め、各地域に根差した活動に発展させることを目標にしています。活動は随時お知らせいたしますので、お楽しみに！

第６回通常総会

以下の日程で、第６回通常総会を開催いたしました。

日時：平成25年６月22日（土）　13：30～

場所：第一会館本館（秋田市大町）

（写真：丹羽社長講演の様子）

総会では、24年度事業報告、収支決算・監査報告および25年度事業計画（案）、活動計画（案）を提案し、審議・承認されました。

ＮＰＯ法人設立前の任意団体としての活動から数えて 10 年目を迎え、次の10年に目を向け、県産菜種油の販売促進や菜の花の多段階活用など、更なる飛躍を決意する機会となりました。

また総会後の研修会では、昨年度より会員になられた秋田プリマ食品株式会社 丹羽 博和 代表取締役社長から、「秋田において食品加工業を発展させるには何が必要か？」と題したご講演を頂き、貴重なご意見をお伺いしました。講演後は、参加者からの質問にも丁寧にお答えいただき、大変充実した研修会を行うことができました。

（丹羽社長の講演資料を添付しておりますので、併せてご確認ください）

＜会員の活動紹介＞

写真：大仙市協和小種の菜の花畑

～農事組合法人 エコファーム（大仙市協和）の取り組み～

ニュースレター（vol. 3）で、お知らせいたしました
「菜の花被災地支援活動」のその後の様子をお伝えいたします。

菜の花被災地支援活動＊～その後～

昨年９月に、ネットワーク会員の農事組合法人エコファーム（代表：佐藤誠さん）が、被災地支援活動として「菜の花で被害を受けた地域を元気にしたい」と、宮城県石巻市の市有地に、菜の花の種を蒔きました。

塩害による影響も心配されましたが、４月 30 日に、開花状況の確認のため石巻市に行ったところ、あたり一面（約 1.2ha）に菜の花が元気に咲いていたそうです。佐藤さんは、「このような状況でも見事に花を咲かせた“強い菜の花”を見て、人々が強く生きて行く力になることを願っている」とお話ししていました。

９ 月の播種以降、菜の花畑付近の方からは、菜の花の生育状況の連絡を度々もらっていたそうです。菜の花を通じて、また新たなつながりや人々の元気が生まれており、このように菜の花は、「幸せの黄色い花」なのかもしれませんね。

～有限会社　企業さきがけ（美郷町）の取り組み～

写真：蜂の巣箱設置の様子

菜の花畑で蜂（マメコバチ）の増殖を応援！

美郷町で菜の花栽培に取り組む有限会社企業さきがけ（代表取締役：佐藤政雄さん）の菜の花畑で、蜂を増やすための協力が進められています。

近年、殺虫剤散布などにより果樹の受粉に使われるマメコバチの個体数が減っていることに悩んだ果樹農家からの相談を受け、佐藤政雄さんは「困っている果樹農家を助けたい」と花粉の豊富な菜の花畑を提供し、「ＪＡこまち」「ＪＡ秋田ふるさと」の組合員の蜂の巣箱を設置しています。

菜の花の可能性・多段階活用がまた一つ増えているようです。

蜂の増殖を応援し「農家を元気にしよう！」

● 各地域の「菜の花情報」をお寄せください

皆様の地域の菜の花の状況はいかがでしたでしょうか。菜の花にまつわる情報を事務局まで、お寄せください。

＜編集後記＞

○今年、はじめて小種地区の広大な菜の花畑を見ました。やはり大面積の菜の花畑には人を引きつける魅力があります。イベントの企画や運営は大変なのですが、なるだけ低コスト・低負担で県内各地において「菜の花まつり」ができないものか、今後検討していく必要があると感じました（渡部）。

○総会後の研修会では、丹羽社長のお話に「耳が痛い」場面もありましたが、そこにこそ発展のチャンスがあると思い、改善の機会にします。また今年度、「環境の取り組み」について学生さんたちと各地域へ視察・発表等に伺いますので、関係者の皆様、ご協力の程よろしくお願いいたします（宮崎）。